生物多様性ふるさと川西戦略推進のシンボル植物，「里山三種の」と「川西」について

資料　１

兵庫県立大学　名誉教授

服部　保

　川西市では2015年に「生物多様性ふるさと川西戦略」を策定しましたが，戦略の内容，戦略の意義，戦略の効果等について市民への周知が不十分であったため戦略そのものの存在もほとんど知られていません。

　戦略を市民に周知する第一歩として，川西市の生物多様性保全を進める上で重要な植物を選定し，それらの植物を生物多様性ふるさと川西戦略推進のためのシンボルとして活用いたします。戦略推進のシンボルは単一種ではなく，多様性にちなんで多くの種を2つの種群に分けて選定いたしました。

　最初の種群は川西市の自然としてもっとも重要な日本一の里山林を構成する種より選定したクヌギ，エドヒガン，ナラガシワの3種とし，それらを「生物多様性ふるさと川西戦略」における里山保全のシンボル，「里山三種の」と命名しました。

　次の種群は川西の貴重な自然である夏緑樹林，照葉樹林，ユキヤナギ低木林，アカマツ－コナラ林，エノキ－ムクノキ林という5樹林を代表する種より選定したブナ，コジイ，ユキヤナギ，シロバナウンゼンツツジ，エノキの5木とし，それらを「生物多様性ふるさと川西戦略」における重要な自然保全のシンボル，「川西」と命名しました。

1．「生物多様性ふるさと川西戦略」における里山保全のシンボル

　　・クヌギ

里山三種の心木　　・エドヒガン

　　　　　　　　　・ナラガシワ

2．「生物多様性ふるさと川西戦略」における重要な自然保全のシンボル…川西五木

　　・ブナ

　　　　　　　　　・コジイ

川西五木　　　　　・ユキヤナギ

　　　　　　　　　・シロバナウンゼンツツジ

　　　　　　　　　・エノキ

「生物多様性ふるさと川西戦略」の里山保全シンボル，「里山三種の」

　「生物多様性ふるさと川西戦略」における里山保全のシンボルとして川西市の日本一の里山林（クヌギ林）を構成する代表的な3種を里山を守る市民の心の支えになるよう「里山三種の心木」として選定します。

川西市黒川一帯には台場クヌギを優占種とする里山林が広がっています。台場クヌギ林はクヌギをはじめとしてコナラ，アベマキ，ナラガシワ，ヤマザクラ，カスミザクラ，エドヒガンなど多くの植物によって構成されていますが，日本一の里山林，台場クヌギ林の代表種といえばクヌギです。クヌギの樹液にはオオクワガタ，カブトムシ，オオムラサキなどの昆虫が集り，クヌギの葉にはオオミドリシジミ，ウラナミアカシジミなどの蝶の幼虫が生息しています。クヌギはまさに生物多様性の世界の基盤を構成している樹木であり，「里山三種の心木」のNo.1の樹木です。

　2番目の樹木は台場クヌギ林の林縁やがれ場に多く生育し，川西市内の4カ所で天然記念物に指定されているエドヒガンです。エドヒガンはヤマザクラやカスミザクラと同様に自生するサクラの一種ですが，ヤマザクラなどに比べて個体数は，兵庫県のレッドリストに記載されているほどはるかに少なく，絶滅危惧種に指定されているほどです。この珍しいサクラが川西市内には多く分布しており，大木となって多様な美しい花をつけることから市内の自生地はサクラの名所となっています。これらのことよりエドヒガンは「里山三種の心木」のNo.2の樹木になります。

　3番目の樹木は里山林構成種のナラガシワです。風土記などの古典に記されている「かしは」とは現在のナラガシワに該当します。本来ナラガシワにカシワの名を与えるべきであったのに，本草家，分類学者が誤って北方に多い「かしは」類似の樹木にカシワの名をつけてしまいました。本家「かしは」であるナラガシワの葉は奈良・平安時代等には特別な神事に供物を盛る器として用いられていました。その「かしは」の葉を天皇の命を受けた美しい采女が川西市畦野に取りに来たことが「住吉大社神代記」という古文書に記されています。また，ナラガシワは絶滅危惧種のヒロオビミドリシジミというたいへん美しい蝶の唯一の食草となっています。ヒロオビミドリシジミは国内では中国，近畿地方に分布していますが，興味深いことに，分布の東限は川西市笹部となっています。ナラガシワは地域の食文化とも関係しています。猪名川上流域で作られている「ちまき」はナラガシワとヨシという2種の植物の葉で包まれているのです。日本国中探してもナラガシワで包む「ちまき」（かしわもちではない）は他にはありません。これらの歴史，地域文化，自然を重ね合わせると，ナラガシワは「里山三種の心木」のNo.3と位置づけられます。

　以上，クヌギ，エドヒガン，ナラガシワが「生物多様性ふるさと川西戦略」における里山林保全のシンボル，「里山三種の心木」の3種として認定されました。

「生物多様性ふるさと川西戦略」における重要な自然保全のシンボル，「川西」

　「生物多様性ふるさと川西戦略」における重要な自然保全のシンボルとして川西市の稀少な五つの自然より代表的な5木を「川西五木」として選定します。

川西市の代表的な自然としては，原植生であり，自然植生でもある照葉樹林，夏緑樹林があげられます。また自然植生として河道内の岩上に成立するユキヤナギ低木林も川西市の自然を代表するものです。人の手が加わった代償植生の代表はクヌギ林ですが，クヌギ林の代表種は「三種の心木」で取り上げたので，クヌギ林を省くと代表的な樹林としてアカマツ－コナラ林とエノキ－ムクノキ林があげられます。

　照葉樹林はコジイ，アラカシ，ヤブツバキ，サカキ，シキミ，アセビなどの照葉樹から構成される樹林で，川西市内では，かつて海抜600m以上の妙見山山頂を除く全域に広がっていました。現在では良好な照葉樹林は平野の多太神社だけに残されています。照葉樹林を代表する樹木としては高木層の優占種であり，大径木となるコジイがあげられます。

　夏緑樹林はブナ，ミズナラ，トチノキ，ハリギリ，コハウチワカエデなどの夏緑樹から構成される樹林で，猪名川上流域では，かつて大野山，剣尾山，深山，高岳，天台山，妙見山などの海抜600m以上の山地に広がっていました。しかし，現在は妙見山山頂部の能勢町と川西市のみに残存しています。夏緑樹林を代表する樹木としては高木層の優占種であり，紅葉も美しい大径木のブナがあげられます。

　猪名川上流部の鼓が滝から多田にかけては河道内に岩塊が露出し，川の流れと岩塊が一体となった美しい渓流景観が見られます。河道内の岩上にはユキヤナギ低木林が成立しています。春のやわらかな光に映えるユキヤナギの花の白さはたいへん美しい。ユキヤナギ低木林の代表種としてはユキヤナギです。

　川西市内にはかつてアカマツ林が広い面積を占めていました。そのアカマツも松枯れのために激減し，現在ではコナラ優占のアカマツ－コナラ林として残存しています。アカマツ林内にはコバノミツバツツジ，モチツツジ，ヤマツツジなどのツツジ科植物が多いのですが，急傾斜な立地では時にシロバナウンゼンツツジが出現します。川西市清和台東の残存林にはこのシロバナウンゼンツツジが多く出現します。アカマツ－コナラ林の代表種としてはたいへん美しいコバノミツバツツジも良いのですが，他地域には少ないということでシロバナウンゼンツツジを代表種とします。

　撹乱された立地にはエノキ，ムクノキ，アキニレなどの樹木が進入し，エノキ－ムクノキ林を形成します。エノキ－ムクノキ林は春日神社，鴨神社，小戸神社の他，北部の山地に点在しています。エノキ－ムクノキ林の主要構成種であるエノキにはオオムラサキ，ゴマダラチョウ，テングチョウ，ヒオドシチョウなどの蝶類やタマムシも集まります。またエノキは大径木となって目立つことからエノキ－ムクノキ林の代表種としてはエノキです。

　以上，コジイ，ブナ，ユキヤナギ，シロバナウンゼンツツジ，エノキが「生物多様性ふるさと川西戦略」における貴重な自然保全のシンボル，「川西」の5として認定されました。